

川西市中心市街地活性化基本計画の概要

～大都市に近接する川西市の新しいまちづくり～

川西市市民生活部商工・観光課 南野 和男

1. 良好な住宅都市

川西市は兵庫県の南東部に位置し、兵庫県の伊丹市、宝塚市、猪名川町、大阪府の池田市、箕面市、豊能町、能勢町の4市3町に接し、北摂山系の山々や猪名川渓谷の水資源にも恵まれ、阪神間でも自然環境が残る良好な住宅都市として発展しています。市域の面積は53.44km²で、東西方向に約6.5km、南北方向に約15.0kmと南北に細長い地形となっており、人口は約16万人を有しています。

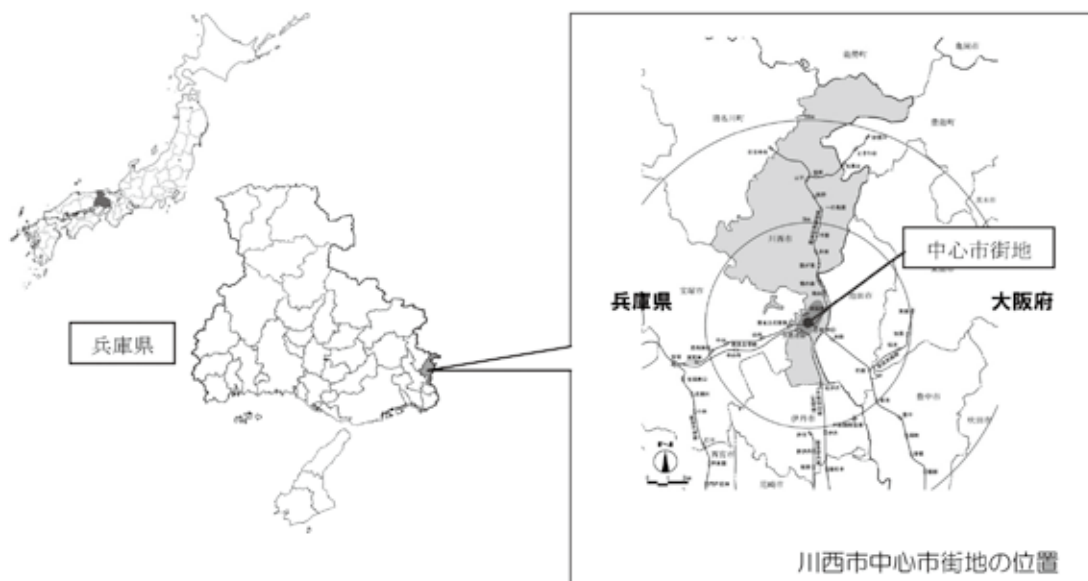
本市は、昭和48年3月に制定した「川西市開発行為等指導要綱（旧名は「川西市宅地開発事業指導要綱）」に基づき、大規模住宅開発による良好な住宅地が形成され、人口は昭和29年8月の市制施行以来増加を続けています。

2. 中心市街地の形成

本市の南部地域に位置する中心市街地は、JR福

知山線、阪急電鉄、能勢電鉄、阪急バスなどの交通機関が集中していることや、大阪市の中心部に近く利便性が高いことなどから、川西能勢口駅周辺において昭和30年代後半からスプロール現象がはじまり、幅員の狭い道路に低層木造建築物が密集するなど、住環境はもとより、防災面でも課題のある市街地が形成されていましたが、昭和48年度に「駅周辺都市整備計画基本構想」を策定し、全国に先がけて市街地再開発事業を積極的に実施するなど、本市の玄関口にふさわしい新しいまちづくりに取り組み、現在の中心市街地が形成されました。

現在では、複数の再開発ビルが集中的に立地し、おしゃれで便利なまちとして注目を浴びていますが、近年の右肩下がりの経済情勢、消費の落ち込み、郊外への分散などに加えて、少子・高齢化が進み、急激に発展する近隣都市の新しいまちに比較して、まちの個性や魅力が少ないことなどから、まちの活力が低下しています。





川西市中心市街地の風景

3. 中心市街地活性化への取り組み

これまでのまちづくり活動は、TMOが中心となって実施する事業、商店会ごとに行う取り組み、ショッピングセンターの販促イベントなどを中心に実施されてきました。これらの活動は、短期的には来街者を増やすことが出来ても一時的なもので、まちのにぎわいを取り戻す大きなうねりには発展せず、持続的なにぎわいとなっていません。

こうしたなか、TMOや川西市商工会、第三セクター、地域の関係者、川西市などが連携して、平成18年度に開始した『かわにし能勢口にぎわいプロジェクト』は市民に親しまれるイベントとして実施することができ、このプロジェクトを積極的に推進することにより、中心市街地活性化の基本的な方針や具体的な目標、取り組み方法などが熱心に話し合わせ、中心市街地活性化協議会への設立に向けて大きく前進しました。こうした取り組みを経て、平成19年8月7日に「川西市中心市街地活性化協議会」が設立されました。



かわにし能勢口にぎわいプロジェクトの様子



中心市街地活性化協議会設立総会の様子

4. 中心市街地の商業の現況

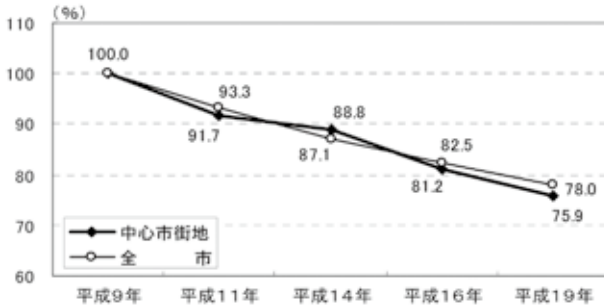
本市の中心市街地は、阪神間でも有数の大型商業施設が集中する地域であり、これまで活発な商業活動が展開されてきましたが、景気の低迷や平成7年の阪神・淡路大震災の影響を受け、消費が落ち込むなど、商業活動の慢性的な停滞が生じています。

また、市北部の猪名川町に新規開業したイオン猪名川ショッピングセンター（開業時の名称はジャスコ猪名川店）や、市南側の伊丹市に新規開業したイオンモール伊丹テラス（開業時の名称は伊丹ダイヤモンドシティ）、西宮市に新規開業した阪急西宮ガーデンズ、JR尼崎駅前のココエあまがさきなどの郊外型大型商業施設の進出や、本市の中心市街地内の商業施設の老朽化などの影響により、商業活動は非常に厳しい状況となっております。

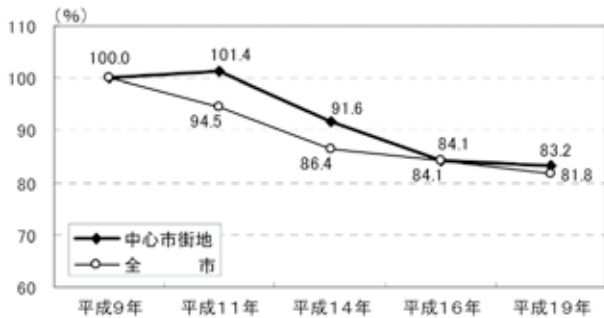
経済産業省の商業統計調査によりますと、中心市街地内の小売業の従業者数と売場面積につきましては大きな変化はありませんが、小売業の商店数と年間商品販売額につきましては、相当の減少が続いています。

中心市街地の活性化にあたりましては、魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワークの構築、様々なイベント事業の展開などにより、商業活動が活発になるまちづくりをめざすことが重要であると考えております。

平成9年を基準とした商店数（小売業）増減割合の推移



平成9年を基準とした年間商品販売額（小売業）の増減割合の推移



5. 中心市街地基本計画の計画期間と区域

基本計画の計画期間は、平成22年11月から平成27年3月までの4年5箇月であり、基本計画の区域は川西能勢口駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38.0ha）、中央北地区土地利用基本構想区域（約24.0ha）、小花地区都市再開発基本構想区域（約1.1ha）、これらの区域をつなぐ市街地（約16.9ha）の合計約80ヘクタールとなっています。

6. 中心市街地基本計画の基本方針と数値目標

基本方針1

買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす

目標1

魅力的で活気のある『かわにしのせぐち』の創造

数値目標

年間商品販売額（小売業）
約536億円（平成21年度）
↓
約540億円（平成26年度）
増加率100.7%

基本方針2

訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす

目標2

楽しみながら回遊したくなる『かわにしのせぐち』の創造

数値目標

休日の歩行者通行量
56,368人（平成21年度）
↓
約62,000人（平成26年度）
増加率110.0%

基本方針3

居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす

参考指標

来街者の平均滞留時間
約2.2時間（平成21年度）
↓
約2.8時間（平成26年度）
増加率127.3%

7. 中心市街地活性化基本計画のめざす2つの方向

本市の中心市街地活性化基本計画のめざす2つの方向は、ひとつには、老朽化の進む再開発ビルの大規模リニューアルや市街地再開発事業、中央北地区特定土地区画整理事業などの推進により魅力的な都市環境を創出すること。ふたつには、これまでに完成した再開発ビルや公共・公益施設などの地域資源を活用し、中心市街地に人々が回遊・滞留するための仕掛けづくりを行うことにより、本市の中心市街地を魅力的で活気のあるまちに再生することです。

これまでの歴史的なイベントに加えて、市民や学生、若者が中心となって、日常的なにぎわいを創出



川西まつり



「いちじく」の即売会



アステかわにし繁昌亭

することをめざします。

8. 主な事業の内容

① 川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業

川西能勢口駅東地区第2工区における都市機能の更新と生活環境の改善のための商業施設と住宅施設などの建設を行います。

② 中央北地区特定区画整理事業

中央北地区における都市基盤や都市施設の整備及び適切な土地利用の促進を図ります。

③ 情報配信システム構築事業

アステ川西において、行政の取り組みや地域の話題などの情報を配信するシステムの構築を図ります。

④ アステ川西大規模改修事業

アステ川西における大規模リニューアルを実施します。

⑤ パルティ川西 A&H デザイン構築事業

案内サインや施設案内板などの設置と店舗情報などを発信します。

⑥ かわにしにぎわい創出イベント事業

路上ライブや街角コンサート、ガーデニングコンテスト、朝市、トラック市、スポット映画会を実施したり、情報マップなどを作成します。

⑦ 金太郎プロジェクトの実施

川西市の「金太郎」キャラクターを活用して本市の良さを全国に情報発信していく取り組みを推進します。

9. 基本計画の認定を受けて

本市は、これまでの新しいまちづくりにより大都市に近接する住宅都市として飛躍的に発展してきました。また、川西能勢口駅周辺は大型商業施設や都市型マンションが建設され、田園風景から見違えるようなまち並みに生まれ変わりました。しかし、市民の生活スタイルの変化や経済情勢の変化、都市機能の郊外分散、近隣市の大型店の新規出店などの影響を受け、まちのにぎわいが減少し、中心市街地の活力は低下しています。さらに、本市においても少子・高齢化は急速に進んでいるため、都市福利のための取り組みを推進し、子育て世帯をはじめ、あらゆる生活者にとって暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進める必要があります。

認定基本計画に掲げた中心市街地のめざす方向により、今後は地域の関係者が協働して活性化のための取り組みをさらに強化し、持続する力を蓄えながら事業を実施することを基本に、中心市街地の活性化をめざしていきます。そのために、まちの資産である再開発ビルのリニューアルやにぎわい再生のための様々な取り組み、中央北地区のまちづくり、未着手の小規模再開発事業、商業活性化のためのイベント、都市福利の取り組みなどを積極的に実施し、本市の中心市街地のキャッチフレーズの『ハート＆アートな街 かわにしのせぐち』としてにぎわいのある高感度なまちづくりを進め、市民に親しまれるまちに再生していくことをめざします。

(みなみの かずお)